

# 徳川みらい学会・二峠六宿道旅推進実行委員会 共同企画 「東海道と浮世絵シンポジウム」を開催

12月18日、徳川みらい学会は二峠六宿道旅推進実行委員会と共催し、「東海道と浮世絵シンポジウム」を静岡市民文化会館で開催しました。歴史研究者ら4氏からそれぞれ講演いただき、東海道の歴史や、浮世絵から見る当時の徳川文化について理解を深めました。

以下では、徳川みらい学会理事である本多隆成静岡大学名誉教授の講演内容をご紹介します。

徳川みらい学会第5回講演会

## 「近世東海道と二峠六宿」

静岡大学名誉教授 本多隆成氏



### 近世宿駅制度の成立

慶長6(1601)年、関ヶ原の戦いからわずか三カ月余りで、いつせいに東海道の宿駅が設置されました。家康がいかに東海道の交通を重視していたかわかると思います。最終的には寛永元(1624)年に三重県の庄野宿が設置されて五十三次が完成します。京都までの五十三次だけでなく、大津から大坂までの伏見、淀、枚方、守口の4宿も

同じく道中奉行が管轄していたこともあり、五十七次という方がよいでしょう。この「次」とは、江戸日本橋を起点として京都へのぼる場合、1番目の宿が品川で、最後の天津までの五十三宿となりますが、街道の物資輸送は宿場ごとに継ぎ送る方式をとっていたため、「五十三継次」と呼ばれるようになりました。

静岡県内には三島宿から白須賀宿まで二十二宿あります。袋井宿は元和2(1616)年に設置されましたので、2016年は設置400年の節目の年となります。

### 寛永期の交通政策

3代将軍家光の時代、寛永期は画期的な交通政策が行われ、主だったものとして次の4点が挙げられます。1点目は大通行。寛永3年5月に秀忠が、7月には家光が上洛し、また寛永11年には家光の30万人規模の大上洛があり、これにより道・橋・宿泊場所が大規模に整備さ

れました。2点目は寛永12年に制度化された参勤交代です。大名や幕府役人が宿泊する先として指定された本陣・脇本陣の整備がこの頃から始まったといわれています。3点目は寛永15年に常備人馬が36人36疋から100人100疋に強化され、さらにその前年に助馬令が出されたことで、荷物の継ぎ送りが円滑に進められるようになりました。4点目は寛永2年に制定された関所の通関規定3カ条。①番所の前で笠・頭巾を脱がせること、②乗物の場合は戸を開かせること、③大名・公家などで前もって連絡がある場合は改めるに及ばないこと、これらは、今切関所を除いて幕末まで改定されることはありませんでした。

### 二峠六宿の発信

県内二十二宿の内、静岡市には蒲原、由比、興津、江尻、府中、丸子の六宿があります。また、東海道中の難所と言われた薩埵峠と宇津ノ谷

峠の二峠もあります。薩埵峠に關していうと、近世初期までは東海道が岸壁沿いにあつたため、干潮時にしか通行できず、「親知らず子知らず」の難所と呼ばれていました。横浜市や三重県亀山市は共に三宿を擁していますが、それ以上の宿場を持つ自治体は静岡市以外ありません。二峠六宿は、静岡市の歴史的・観光的な重要な資源であり、街道観光の拠点として、さらに発信されることを期待します。



個人・法人会員を随時募集しています。皆さまのご入会をお待ちしております。

〈お問い合わせ〉 徳川みらい学会事務局 〈TEL〉 284-9660 〈HP〉 [徳川みらい学会](#) [検索](#)